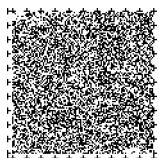


志木市 将来ビジョン

第3編 地区ビジョン



1. はじめに

(1) 各地区の位置・面積

本市は、中心部に新河岸川が流れおり、川を挟んで南西部に、本町地区、柏町地区、幸町地区、館地区が位置し、北東部に上宗岡地区、中宗岡地区、下宗岡地区が位置します。

面積は中宗岡地区が最も大きく、人口密度は館地区が最も高く、次いで幸町地区、本町地区となっています。

■各地区の位置（面積・人口密度）



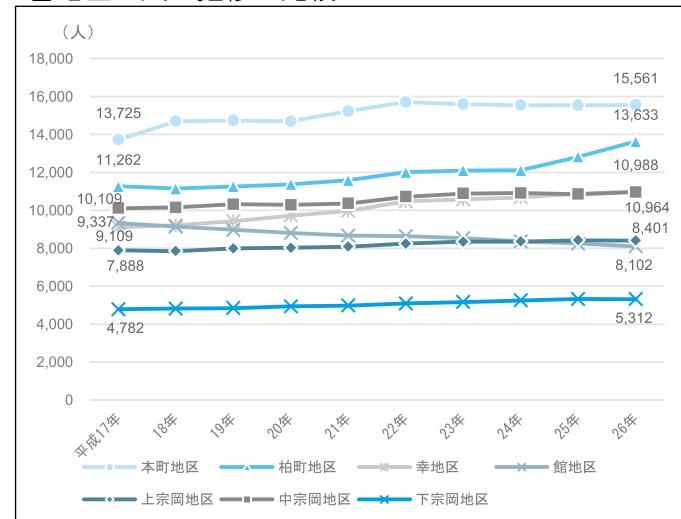
(2) 人口の推移

各地区の人口推移を比較すると、本町地区が最も多く、平成 26 年で 15,561 人となっています。次いで、柏町地区が 13,633 人となっており平成 24 年以降、大幅に増加しています。

下宗岡地区は最も人口が少なくなっていますが、緩やかに増加しています。

館地区では、年々人口が減少しており、平成 26 年で 8,102 人となっています。

■各地区の人口推移の比較



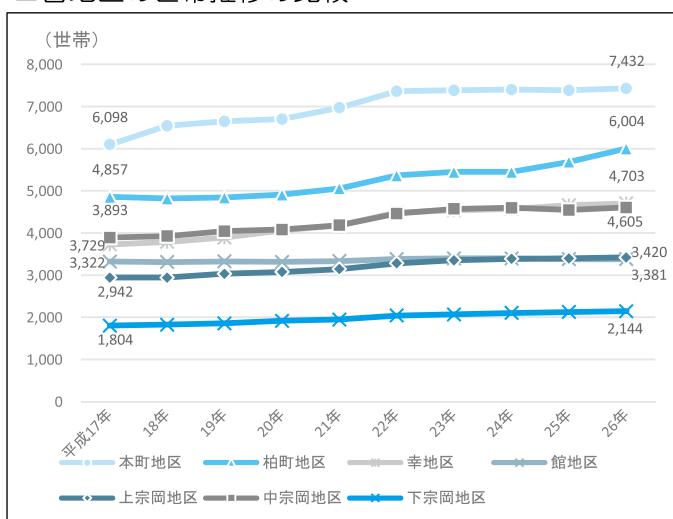
出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年 1 月 1 日現在

(3) 世帯数の推移

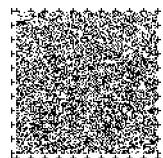
各地区の世帯数推移を比較すると、本町地区が最も多く、平成 26 年で 7,432 世帯となっており、次いで、柏町地区が 6,004 世帯となっています。

人口が減少している館地区においても、世帯数は緩やかに増加しています。

■各地区の世帯推移の比較



出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年 1 月 1 日現在



2. 本町地区

(1) 本町地区の概況

東武東上線志木駅の東口（一部新座市）を含む交通の利便性が高いエリアで、本市の中心市街地が形成されています。大規模商業施設や商店街、市民会館などの公共公益施設、私立学校などの主要施設が立地しており、本市の中で最も人口が多い地区となっています。

また新河岸川には、いろは親水公園が整備されており、周辺には本市の歴史を伝える国登録有形文化財や県・市の指定文化財が点在しています。



(2) 本町地区の人口動向

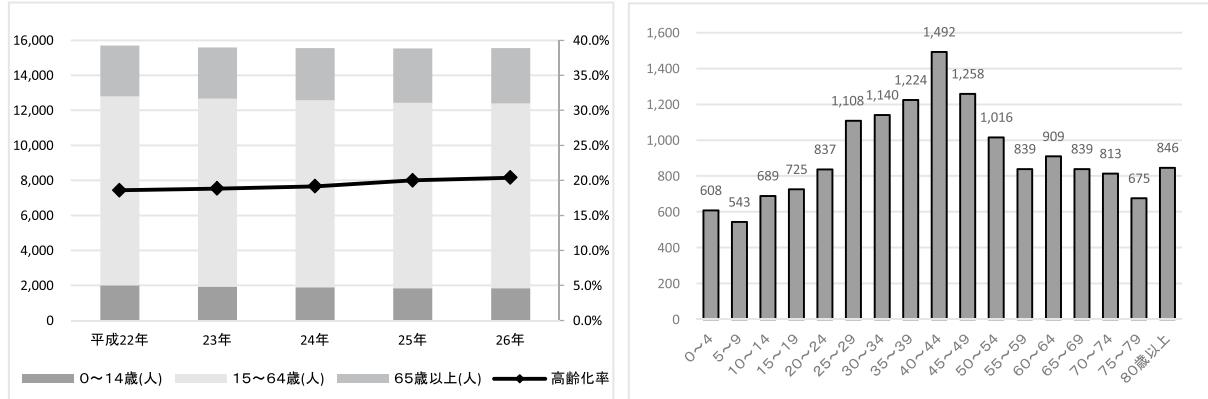
平成 25 年までは減少傾向となっていましたが、平成 26 年には増加に転じています。高齢者が増加しており、緩やかに高齢化が進んでいます。

年齢別の人団構成では、20 歳代後半～50 歳代前半が多くなっています。

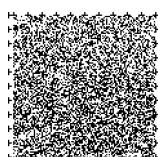
■年齢 3 区分別人口及び高齢化の推移

	平成22年	23年	24年	25年	26年
総数(人)	15,706	15,598	15,550	15,540	15,561
0～14歳(人)	2,001	1,926	1,900	1,847	1,840
15～64歳(人)	10,785	10,734	10,671	10,585	10,548
65歳以上(人)	2,920	2,938	2,979	3,108	3,173
高齢化率	18.6%	18.8%	19.2%	20.0%	20.4%

■年齢 3 区分別人口及び高齢化の推移（グラフ） ■平成 26 年の 5 歳階級別人口（グラフ）



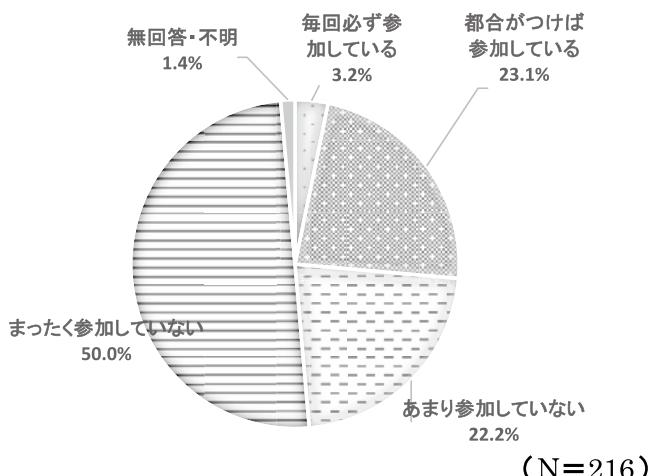
出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年 1 月 1 日現在



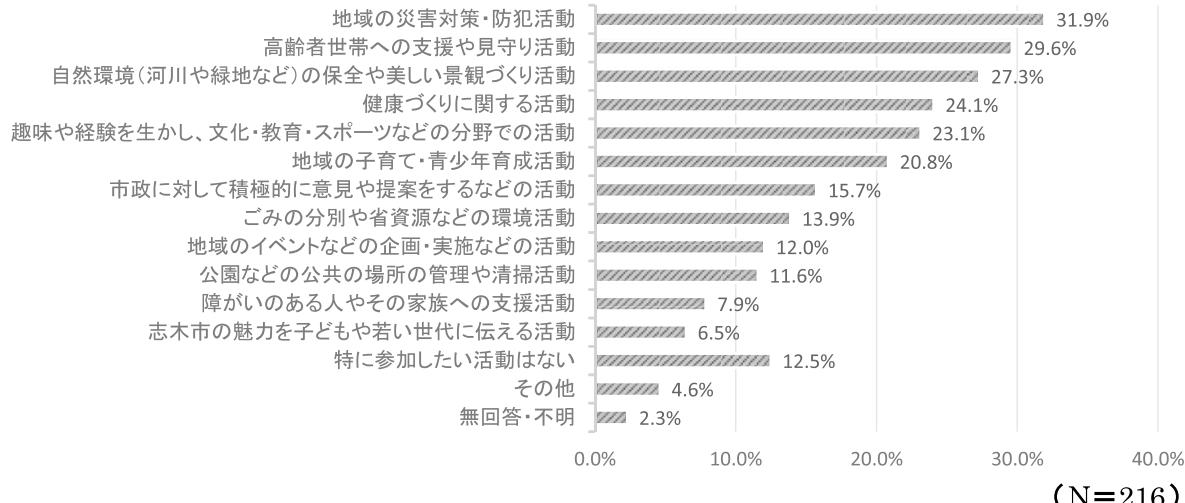
(3) 本町地区的市民意識

- 地域活動への参加状況は、柏町地区や幸町地区と同様の傾向であり、約半数が参加していない状況にあります。
- 市民力を生かしたい活動の内容は、「地域の災害対策・防犯活動」や「高齢者世帯への支援や見守り活動」が多くなっており、安全・安心に関して意識が高いことが特徴的です。

■ 地域活動への参加



■ 市民力を生かしたい活動



※市民意識調査（調査項目の中から、「市民力」に関連する項目）を抜粋

(4) 地区まちづくり会議からの主な意見

① 問題点・課題

- ・「にぎわい・活気」については、子どもが遊べる場所やイベントの少なさなどが課題にあがっており、「コミュニティ」では、町内会への参加や認知度の低さがあがっています。
- ・「都市基盤・交通」については、歩きにくい道や駅周辺の渋滞が問題点となっており、災害時の不安など「防災」に関する課題もあがっています。

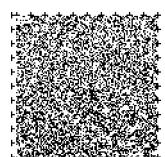
② 優れている点・強み

- ・「住環境」について、自然が豊かな点や利便性の良さ、施設の充実等があがっています。
- ・新河岸川等の景観や歴史、観光資源等といった「豊かな資源」が豊富にあるという意見があがっています。

③ 地区で主体的に取り組んでいるまちづくり活動

- ・「防犯・防災」に関する活動としては夜間のパトロール、「イベント」に関する活動としては敷島神社の祭りやラジオ体操に取り組まれています。

※地区まちづくり会議の意見から、多かった意見や地区を特徴づける意見を抽出



(5) 本町地区の課題

地区的現状を踏まえ、特に地区で解決すべき重点的な課題として、「地区の活性化」「コミュニティ」「住環境」の3つの視点で課題を整理します。

【地区の活性化に関する課題】

- 志木駅から市役所方面へ通じる都市計画道路中央通停車場線の整備が進んでいますが、沿道商業地の再生が進んでいないため、駅前商業地以外のにぎわいが減少しています。

【コミュニティに関する課題】

- 志木駅周辺においてマンション建設等が進み人口も増加していますが、新旧住民の交流や、子ども、若者、高齢者など世代間の交流を活性化することが求められています。

【住環境に関する課題】

- 志木駅東口に殆どのバス路線が集中しており、最も交通の利便性が高いエリアですが、バス・自動車交通が本町通りに集中しているため、慢性的な交通混雑が発生しています。

(6) 本町地区のまちづくり方針

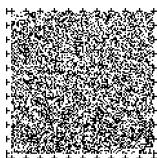
以下の方針に基づき、具体的な施策に取り組みます。各地区のまちづくりの方針、具体的な施策を推進することで、将来構想に掲げる市の将来像の実現を目指します。

方針1	交通の利便性が高く主要施設が多数立地する中心市街地として、商業施設・事業所・住宅（マンション）の適正立地を促進し、引き続き定住促進とにぎわいの創出を図ります。
-----	---

【具体的施策】	【取組内容】
持続可能なまちづくりの推進	人口減少や超高齢社会に対応するため、将来にわたって都市機能を適正に維持管理し、各地域が持つ特性を生かした持続可能なまちづくりを推進します。 また、都市の景観を守るため、景観形成の推進を図ります。

方針2	志木駅から市役所に通じる本町通り沿道は本市の都市軸と位置づけられることから、商業施設の集積とともに高低差を生かした魅力的な沿道景観の形成を図ります。
-----	--

【具体的施策】	【取組内容】
道路環境の整備	市民が安心して通行できる道路環境を確保するため、橋梁の耐震化や生活道路などの整備を進めます。また、道路の点検やパトロール等により道路状況の把握に努め、舗装の打換工事や適宜必要な補修工事を行います。



方針3 新河岸川周辺は自然や歴史資源を生かした市民の憩いの場として充実を図るとともに、いろは親水公園の活用などにより、さくらまつりだけなく一年を通して新河岸川に市民が集うような仕掛けづくりを行います。

【具体的施策】	【取組内容】
観光資源の発掘と活用	観光協会をはじめとする関連団体等と連携して、地域特性を生かした観光資源の発掘と活用を図るとともに、にぎわいを創出するため、まちの担い手育成塾などの人材育成に取り組み、積極的な観光事業を展開していきます。
みどり豊かな暮らし	季節を感じ、自然にふれあえる憩いの場を確保するため、志木市緑の基本計画に基づき、将来にわたり市内に残された数少ない緑地の保全に努めます。また、保存樹木の指定による管理費の一部補助や生け垣の設置に対する補助を行い、都市緑化を促進とともに、市民、市民団体、事業者及び行政による緑化活動を推進します。

方針4 歩行者・自転車交通を重視し、地球環境にやさしいまちづくりを目指します。

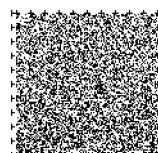
【具体的施策】	【取組内容】
環境に優しい交通手段	都市の低炭素化に向けた取組として、環境にやさしく、交通の利便性の高いまちを目指します。

方針5 新旧住民や多様な世代の交流促進により市民が一体となった地域活動の活性化を図り、住み心地の良いコミュニティの形成を促進します。

【具体的施策】	【取組内容】
地域コミュニティの活性化	町内会をはじめとする地域のコミュニティ団体の育成や活動の支援を通じて、市民のコミュニティ意識の高揚と地域コミュニティの活性化を促進し、豊かな地域社会づくりを推進します。

方針6 特色ある私立高校との交流拡大を図り、市民が実感できる文教イメージの定着や市民スポーツの拡充を目指します。

【具体的施策】	【取組内容】
広域行政の推進	地域の多様な主体と行政とが協働し、学園都市としてのブランド向上や市民のスポーツ・レクリエーション活動の充実を図ります。



3. 柏町地区

(1) 柏町地区の概況

東武東上線柳瀬川駅の東側に位置し、本町に次いで人口の多い地区です。近年の人口増加率が最も高く、子育て世代も増加しています。

地区の北側を柳瀬川が流れています。土手の桜並木など自然に親しめる空間となっています。また、世界で一本しかない貴重なチョウショウインハタザクラや、カッパ伝説のルーツとなっている宝幢寺など本市を代表する歴史資源が存在しています。



(2) 柏町地区の人口動向

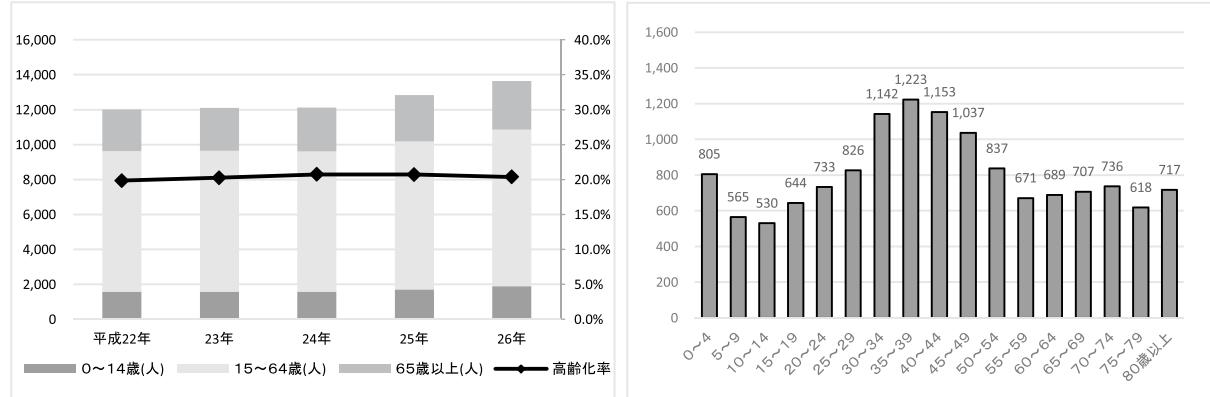
平成24年までは緩やかな増加傾向となっていましたが、平成25年から平成26年には800人以上の増加となっています。

年齢別的人口構成では、0～4歳と20歳代後半～50歳代前半が多くなっています。

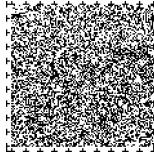
■年齢3区分別人口及び高齢化の推移

	平成22年	23年	24年	25年	26年
総数(人)	12,010	12,099	12,114	12,827	13,633
0～14歳(人)	1,572	1,572	1,574	1,700	1,900
15～64歳(人)	8,056	8,078	8,028	8,471	8,955
65歳以上(人)	2,382	2,449	2,512	2,656	2,778
高齢化率	19.8%	20.2%	20.7%	20.7%	20.4%

■年齢3区分別人口及び高齢化の推移(グラフ) ■平成26年の5歳階級別人口(グラフ)



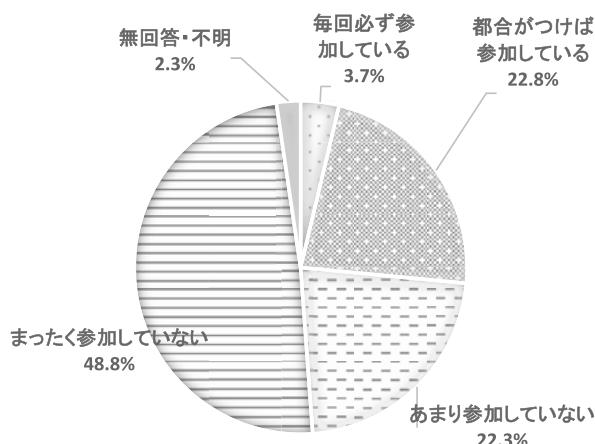
出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年1月1日現在



(3) 柏町地区的市民意識

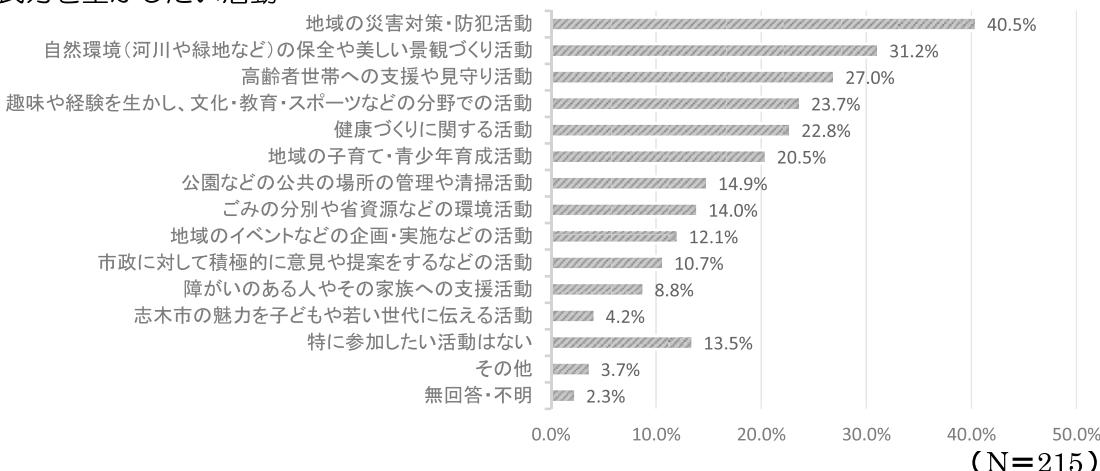
- 地域活動への参加状況は、本町地区や幸町地区と同様の傾向であり、約半数が参加していない状況にあります。
- 市民力を生かしたい活動の内容は、「地域の災害対策・防犯活動」が40.5%と最も高くなっています、災害に対する意識が高いことが特徴的です。

■ 地域活動への参加



(N=215)

■ 市民力を生かしたい活動



(N=215)

※市民意識調査（調査項目の中から、「市民力」に関連する項目）を抜粋

(4) 地区まちづくり会議からの主な意見

① 問題点・課題

- ・「防災・防犯」については、災害時の情報提供や不審者対策に関してあがっています。
- ・「高齢化」「コミュニティ」については、高齢者の独り暮らしの多さなどから高齢化対策の必要や地域のつながりの希薄化があがっており、「交通」については、バスの本数増加の必要な点があがっています。
- ・「公共空間・施設」については、公園や遊び場の少なさ等があがっています。

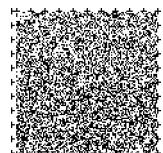
② 優れている点・強み

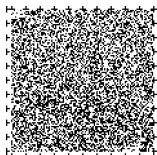
- ・「住環境」について、豊かな自然や静かな住宅地等が強みとしてあがっており、「コミュニティ」では、踊りなどの伝統芸能を子どもが受け継いでいるところがあり、世代間交流が行われている点等があがっています。
- ・駅への交通アクセスの良さ等といった「利便性」も強みとしてあがっています。

③ 地区で主体的に取り組んでいるまちづくり活動

- ・「防犯・防災」に関する活動としてはパトロールや防災訓練の実施、「イベント」に関する活動としては祭り等に取り組まれています。

※地区まちづくり会議の意見から、多かった意見や地区を特徴づける意見を抽出





(5) 柏町地区の課題

地区の現状を踏まえ、特に地区で解決すべき重点的な課題として、「地区の活性化」「コミュニティ」「住環境」の3つの視点で課題を整理します。

【地区の活性化に関する課題】

- 貴重な文化財などを生かした良好な地域イメージの形成が求められています。

【コミュニティに関する課題】

- 人口増加が著しい地区であり、住民相互の交流やマンション単位での新規居住者による新たなコミュニティの形成が必要となっています。

【住環境に関する課題】

- 子育て世代が増えている中で、街灯が少なく暗い道路がある、子供を遊ばせる公園が少ないなどが指摘され、安全で安心な生活環境の実現が求められています。
- 鉄道駅があり広域交通の利便性が高い一方で、志木駅と比べて柳瀬川駅は極端にバス路線が少なく、市内の移動手段は限られています。
- 不整形な街区や狭い道路が多く、緊急時対応の不安がみられます。

(6) 柏町地区のまちづくり方針

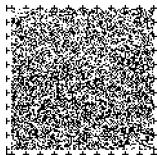
以下の方針に基づき、具体的施策に取り組みます。各地区のまちづくりの方針、具体的施策を推進することで、将来構想に掲げる市の将来像の実現を目指します。

方針 1	本市を代表する歴史資源を積極的に活用し、広域交通の利便性が高いだけでなく、歴史に彩られた美しい地域イメージの形成を図ります。
-------------	--

【具体的施策】	【取組内容】
文化を育む活動の支援	市民が伝統文化や郷土芸術に親しむ機会を充実させるとともに、文化を育む活動を推進して継承していくよう支援します。また、指定文化財等の保護と保存整備を進め、市民に積極的に紹介し、文化財保護意識の高揚を図ります。

方針 2	安心して子育てができるように、公園・遊び場の充実や街灯の適正配置などの空間整備とともに、子育てサポートの拡充を図ります。
-------------	--

【具体的施策】	【取組内容】
子育て家庭への支援	出産や育児に伴う経済的、精神的な不安を軽減し、在宅の子育て家庭を含めたすべての子育て家庭が、安心して楽しく子育てができるよう、ライフステージにあわせた支援を行います。
安全で快適な公園の整備	市民が安全に公園を利用できるよう公園施設のパトロールを実施し、事故防止に努めるとともに、市民との協働による維持管理を進めます。また、公園における世代間交流や地域住民のニーズに合わせた遊具のリニューアル、健康遊具や防災設備の設置など、誰もが快適に過ごせる公園の整備を進めます。
防犯体制の充実	安全で安心なまちづくりを進めるため、犯罪が発生しにくい環境づくりと地域での防犯活動を推進します。

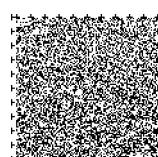


方針3	コミュニティ施設の充実や市民が集う場づくりなどにより、新旧住民や多様な世代の交流を促進し、市民が一体となった地域活動や住み心地の良いコミュニティの形成を図ります。
------------	---

【具体的施策】	【取組内容】
地域コミュニティの活性化	町内会をはじめとする地域のコミュニティ団体の育成や活動の支援を通じて、市民のコミュニティ意識の高揚と地域コミュニティの活性化を促進し、豊かな地域社会づくりを推進します。
コミュニティ拠点の整備	地域コミュニティの拠点である町内会館や集会所等について、安全で安心して利用できるよう、必要な整備と活用のための助成を行います。

方針4	身近に自然を感じることができる良好な住宅地として柳瀬川の自然環境の保全を行い、高低差のある地形を生かした魅力的な景観形成を促進します。
------------	---

【具体的施策】	【取組内容】
みどり豊かな暮らし	季節を感じ、自然にふれあえる憩いの場を確保するため、志木市緑の基本計画に基づき、将来にわたり市内に残された数少ない緑地の保全に努めます。また、保存樹木の指定による管理費の一部補助や生け垣の設置に対する補助を行い、都市緑化を促進するとともに、市民、市民団体、事業者及び行政による緑化活動を推進します。
持続可能なまちづくりの推進	人口減少や超高齢社会に対応するため、将来にわたって都市機能を適正に維持管理し、各地域が持つ特性を生かした持続可能なまちづくりを推進します。 また、都市の景観を守るため、景観形成の推進を図ります。



4. 幸町地区

(1) 幸町地区の概況

東武東上線の志木駅と柳瀬川駅の間に位置する広域交通の利便性が高いエリアで、大部分が土地区画整理事業によって一体的に都市基盤が整備された地区です。

近年、柏町に次いで人口増加が著しく、子育て世代も増加しています。



(2) 幸町地区の人口動向

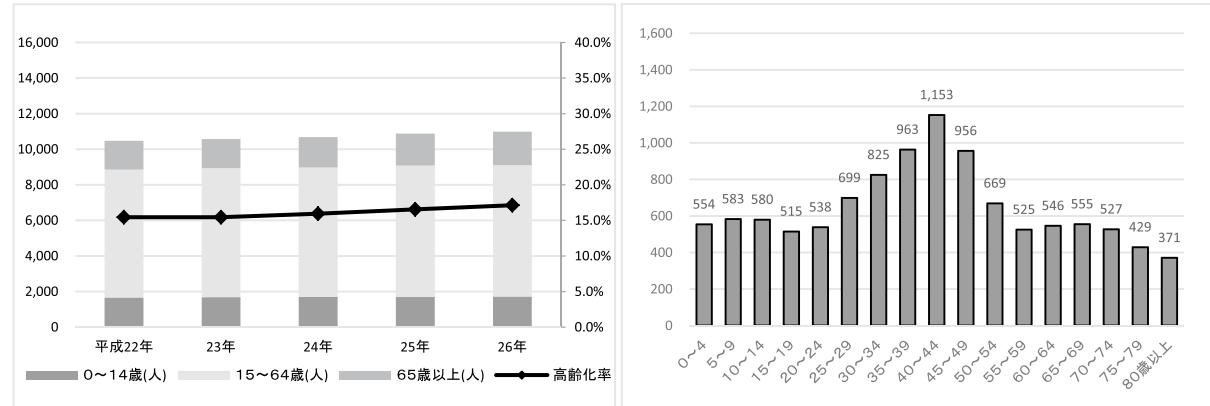
近年の人口は、平成22年の10,472人から平成26年の10,988人と増加傾向となっています。高齢化率は他地区と比較して低く、平成26年で17.1%となっています。

年齢別の人団構成では、20歳代後半～50歳代前半が多くなっています。

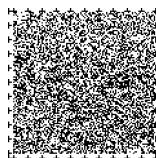
■年齢3区分別人口及び高齢化の推移

	平成22年	23年	24年	25年	26年
総数(人)	10,472	10,572	10,680	10,882	10,988
0～14歳(人)	1,666	1,687	1,701	1,698	1,717
15～64歳(人)	7,188	7,253	7,276	7,382	7,389
65歳以上(人)	1,618	1,632	1,703	1,802	1,882
高齢化率	15.5%	15.4%	15.9%	16.6%	17.1%

■年齢3区分別人口及び高齢化の推移(グラフ) ■平成26年の5歳階級別人口(グラフ)



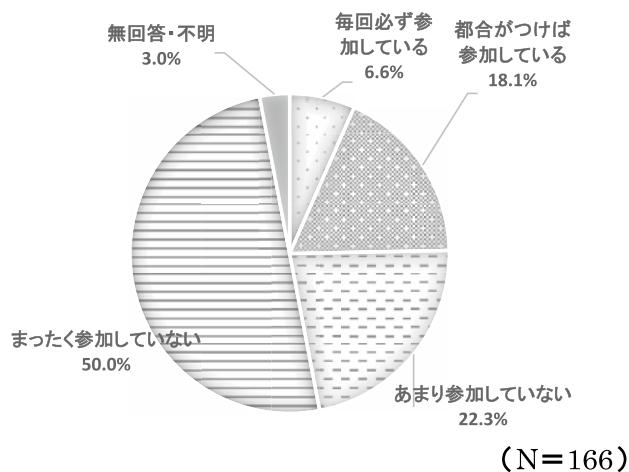
出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年1月1日現在



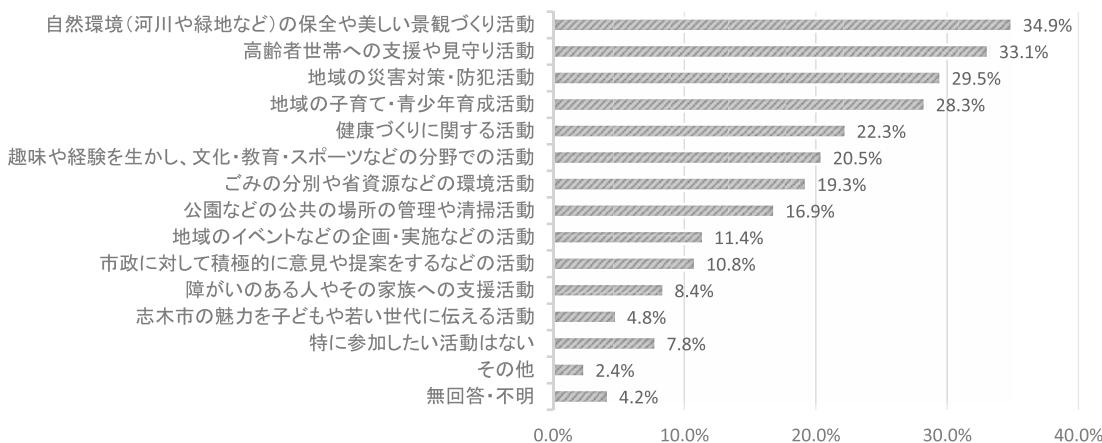
(3) 幸町地区の市民意識

- 地域活動への参加状況は、本町地区や柏町地区と同様の傾向であり、約半数が参加していない状況にあります。
- 市民力を生かしたい活動の内容は、「自然環境（河川や緑地など）の保全や美しい景観づくり活動」が34.9%と最も高くなっています、環境や景観に対する意識が高いことが特徴的です。

■ 地域活動への参加



■ 市民力を生かしたい活動



(N=166)

※市民意識調査（調査項目の中から、「市民力」に関する項目）を抜粋

(4) 地区まちづくり会議からの主な意見

① 問題点・課題

- ・「少子高齢化」については、地域の高齢化が進行することに対する不安や育児に対する支援の必要性についての課題があがっています。
- ・「コミュニティ」「施設」については、地域の交流や町内会の連携、集まれる場の少なさ等があがっています。
- ・「マナー」の悪さや歩道の狭さ、交通量の多さなど「交通」について、夜道が危険なところがあるなど「防犯・防災」についての課題もあがっています。

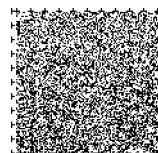
② 優れている点・強み

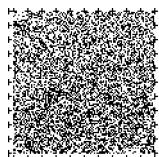
- ・「コミュニティ」について、地域の活動が活発である、地域の連携がとれている等が強みとしてあがっており、「住環境」では、住みやすさや施設の充実等があがっています。
- ・駅への近接性や交通の便のよさ等といった「利便性」も強みとしてあがっています。

③ 地区で主体的に取り組んでいるまちづくり活動

- ・「防犯・防災」に関する活動として、防犯パトロールやあいさつ運動の実施、「イベント」に関する活動として、祭りの実施等に取り組まれています。

※地区まちづくり会議の意見から、多かった意見や地区を特徴づける意見を抽出





(5) 幸町地区の課題

地区の現状を踏まえ、特に地区で解決すべき重点的な課題として、「地区の活性化」「コミュニティ」「住環境」の3つの視点で課題を整理します。

【地区の活性化に関する課題】

- 交通の利便性が高く生活環境が充実した住宅地が形成されており、今後も人口定住の受け皿として機能することが求められています。

【コミュニティに関する課題】

- 転入者による人口増加が著しい中、活発な地域活動や地域間の連携により、住民相互の交流によるコミュニティの形成が必要です。また、新規住民においては、団地やマンション単位での新規居住者による新たなコミュニティの形成が必要となっています。
- 子育て世代が増加しているため、子育て環境の充実が求められています。

【住環境に関する課題】

- 一体的な都市基盤整備を生かすために、計画的な土地利用誘導などが求められています。また、道路が狭い地域では、歩行者の安全性を確保することが必要となっています。

(6) 幸町地区のまちづくり方針

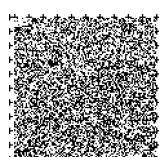
以下の方針に基づき、具体的施策に取り組みます。各地区のまちづくりの方針、具体的施策を推進することで、将来構想に掲げる市の将来像の実現を目指します。

方針1	一体的な基盤整備を生かした計画的な土地利用の実現により、交通の利便性が高い良好な住環境の保全を図ります。
------------	--

【具体的施策】	【取組内容】
持続可能なまちづくりの推進	人口減少や超高齢社会に対応するため、将来にわたって都市機能を適正に維持管理し、各地域が持つ特性を生かした持続可能なまちづくりを推進します。 また、都市の景観を守るため、景観形成の推進を図ります。
市民の足の確保	高齢者や障がい者などが暮らしやすい交通の利便性が高いまちづくりを推進するため、「市民の足の確保」に向けて志木市型デマンド交通を実施します。

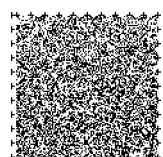
方針2	安心して子育てができるように、公園・遊び場などの空間整備とともに、子育てサポートの拡充を図ります。
------------	---

【具体的施策】	【取組内容】
子育て家庭への支援	出産や育児に伴う経済的、精神的な不安を軽減し、在宅の子育て家庭を含めたすべての子育て家庭が、安心して楽しく子育てができるよう、ライフステージにあわせた支援を行います。
安全で快適な公園の整備	市民が安全に公園を利用できるよう公園施設のパトロールを実施し、事故防止に努めるとともに、市民との協働による維持管理を進めます。また、公園における世代間交流や地域住民のニーズに合わせた遊具のリニューアル、健康遊具や防災設備の設置など、誰もが快適に過ごせる公園の整備を進めます。



方針3	コミュニティ施設の充実や市民が集う場づくりなどにより、新旧住民や多様な世代の交流を促進し、市民が一体となった地域活動や住み心地の良いコミュニティの形成を図ります。
------------	---

【具体的施策】	【取組内容】
地域コミュニティの活性化	町内会をはじめとする地域のコミュニティ団体の育成や活動の支援を通じて、市民のコミュニティ意識の高揚と地域コミュニティの活性化を促進し、豊かな地域社会づくりを推進します。
コミュニティ拠点の整備	地域コミュニティの拠点である町内会館や集会所等について、安全で安心して利用できるよう、必要な整備と活用のための助成を行います。



5. 館地区

(1) 館地区の概況

東武東上線柳瀬川駅の西側に位置し、民間の大規模開発による志木ニュータウンが立地しております。本市で最も人口密度の高い地区です。志木ニュータウンと一体となって、小中学校、市民体育館、図書館などが立地しています。

また、地区の北側には柳瀬川が流れており、土手の桜並木などの自然とふれあうこともできます。



(2) 館地区の人口動向

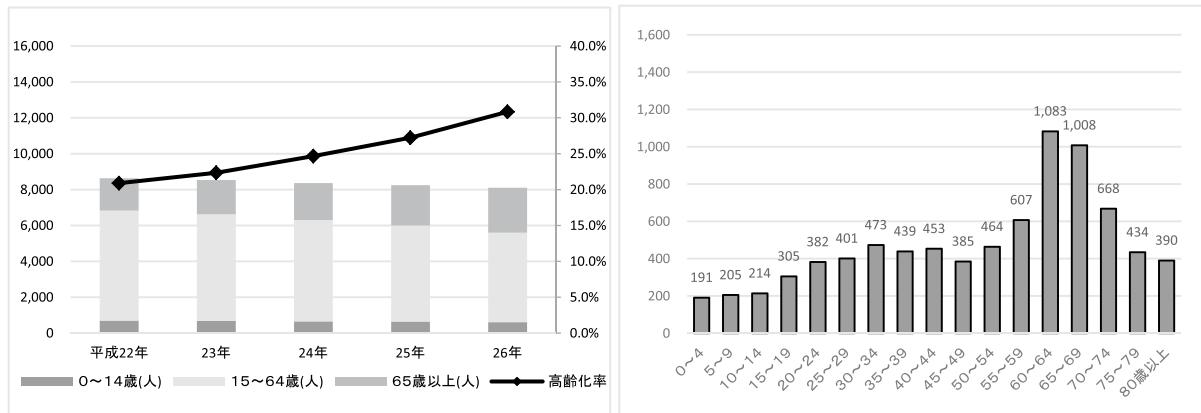
近年の人口は、平成22年の8,630人から平成26年の8,102人と減少傾向となっています。高齢化率は、他地区と比較して最も高く、平成26年で30.9%となっています。

年齢別の人団構成では、他地区に比べ60歳代以上の割合が高くなっています。

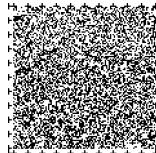
■年齢3区分別人口及び高齢化の推移

	平成22年	23年	24年	25年	26年
総数(人)	8,630	8,532	8,363	8,245	8,102
0～14歳(人)	700	679	652	648	610
15～64歳(人)	6,126	5,947	5,648	5,352	4,992
65歳以上(人)	1,804	1,906	2,063	2,245	2,500
高齢化率	20.9%	22.3%	24.7%	27.2%	30.9%

■年齢3区分別人口及び高齢化の推移（グラフ） ■平成26年の5歳階級別人口（グラフ）



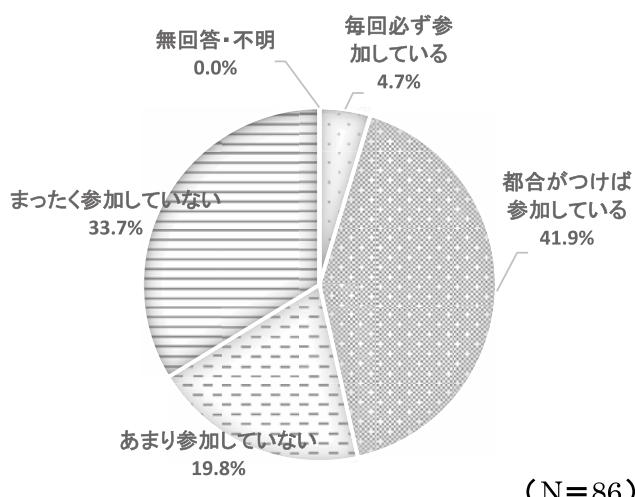
出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年1月1日現在



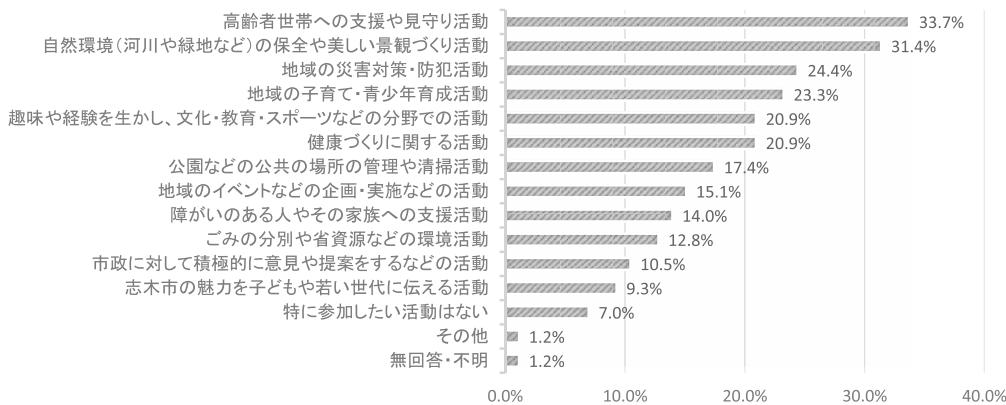
(3) 館地区的市民意識

- 地域活動へは「都合がつけば参加している」が41.9%と最も高く、他の地区と比較しても参加意識が高い地区といえます。
- 市民力を生かしたい活動の内容は、「高齢者世帯への支援や見守り活動」が33.7%と最も高く、高齢化率が最も高い地区において、市民も高齢者支援に対する関心が高いことが特徴的です。

■ 地域活動への参加



■ 市民力を生かしたい活動



(N=86)

※市民意識調査（調査項目の中から、「市民力」に関する項目）を抜粋

(4) 地区まちづくり会議からの主な意見

① 問題点・課題

- ・「少子高齢化・人口減少」については、地域の高齢化や高齢者支援・子育て支援対策の必要性があがっており、「施設・設備」については、マンションや団地の老朽化やバリアフリー化の不備に関してあがっています。
- ・「商店街の衰退」や他の地域とのつながりの希薄化等の「孤立」に関してあがっています。
- ・事故の多さや交通量の多さ等の「交通」に関する点や「防災」に関する課題があがっています。

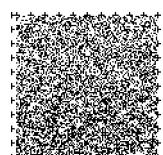
② 優れている点・強み

- ・公共施設の充実等といった「住環境」の良さや、柳瀬川沿いの緑等といった「みどり豊かな環境」があがっています。
- ・「教育環境」、商店や公共施設への「利便性」、「コミュニティ」が強みとしてあがっています。

③ 地区で主体的に取り組んでいるまちづくり活動

- ・「防犯・防災」に関する活動として、防犯パトロール等の実施、「福祉」に関する活動として、高齢者の交流促進に向けた昼食会の実施等に取り組まれています。

※地区まちづくり会議の意見から、多かった意見や地区を特徴づける意見を抽出



(5) 館地区の課題

地区的現状を踏まえ、特に地区で解決すべき重点的な課題として、「地区の活性化」「コミュニティ」「住環境」の3つの視点で課題を整理します。

【地区の活性化に関する課題】

- 地区の大部分を占める志木ニュータウンは、広域交通の利便性や生活関連施設は充実しているものの、建物や設備の老朽化、著しい高齢化の進行、商店街の衰退などにより活力の低下が懸念されています。

【コミュニティに関する課題】

- 長年にわたって良好なコミュニティが形成されてきましたが、人口減少と高齢化の進行（特に単身高齢世帯の増加）によりコミュニティ活動の制約がみられます。

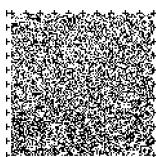
【住環境に関する課題】

- 住民の高齢化に伴うバリアフリーの必要性や、建物の老朽化に伴う大規模地震などに対する不安が増大しています。
- 一定の買い物環境は維持されていますが、商店街の衰退が目立つことによりイメージの低下が懸念されています。

(6) 館地区のまちづくり方針

以下の方針に基づき、具体的施策に取り組みます。各地区のまちづくりの方針、具体的施策を推進することで、将来構想に掲げる市の将来像の実現を目指します。

方針1	高齢者が住み続けられるように、生活サポートの充実とともに住宅改善の支援を行います。
【具体的施策】	【取組内容】
高齢者福祉の充実	高齢者及び要介護者等が自立した生活を継続できるよう、本人や家族を支援するため、市独自の事業を実施し、利用の周知とともに、支援情報、保健・福祉及び関係機関の連絡体制を強化します。
住宅施策の推進	子どもから高齢者、あらゆる世帯の誰もが安全・安心で快適に暮らすことができるよう住環境を取り巻くさまざまな課題を整理し、良好な住まい・住環境の形成を目指します。
まちの防災機能の向上	大規模地震発生時の住宅の安全確保のため、耐震性に不安のある共同住宅の耐震化を促進し、災害に強いまちづくりを推進します。



方針2 道路・公園や公共公益施設が整備されている良好な環境を生かして子育て世代の新たな定住促進施策を検討し、コミュニティの活性化とともにニュータウンの再生を目指します。

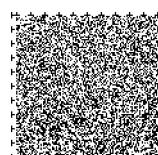
【具体的施策】	【取組内容】
子育て家庭への支援	出産や育児に伴う経済的、精神的な不安を軽減し、在宅の子育て家庭を含めたすべての子育て家庭が、安心して楽しく子育てができるよう、ライフステージにあわせた支援を行います。
地域と連携した子育て支援	地域ぐるみで子育てができるよう、地域の活動団体等との協働の取組や交流を促進し、子どもにとってよりよい子育て環境の整備に努めます。
地域コミュニティの活性化	町内会をはじめとする地域のコミュニティ団体の育成や活動の支援を通じて、市民のコミュニティ意識の高揚と地域コミュニティの活性化を促進し、豊かな地域社会づくりを推進します。

方針3 買い物環境の充実やにぎわいの創出を目指し、身近な買い物空間であり市民が集う場である商店街の活性化を図ります。

【具体的施策】	【取組内容】
活気ある商工業の振興	商工会との連携を強化し、創意工夫を凝らした魅力ある地域活性化事業や、地元商店会の育成を支援します。 また、空き店舗の増加による商業機能低下を防ぐため、市内の空き店舗情報を一元管理し、新たに起業する事業主に対して情報提供と創業支援をすることで、地域経済に元気と活気を創出します。

方針4 桜並木など柳瀬川の自然を保全し、身近に自然とふれあえる良好な環境の維持を図ります。

【具体的施策】	【取組内容】
みどり豊かな暮らし	季節を感じ、自然にふれあえる憩いの場を確保するため、志木市緑の基本計画に基づき、将来にわたり市内に残された数少ない緑地の保全に努めます。また、保存樹木の指定による管理費の一部補助や生け垣の設置に対する補助を行い、都市緑化を促進とともに、市民、市民団体、事業者及び行政による緑化活動を推進します。



6. 上宗岡地区

(1) 上宗岡地区の概況

荒川と新河岸川に挟まれた荒川低地の北部に位置するエリアで、人口密度の低い住工混在の地区となっています。上宗岡地区の代表的な施設であった市民病院の跡地には民間病院が建設され、新河岸川沿いには小・中・高等学校が集積しています。

一般国道463号（浦和所沢バイパス）が地区の東西方向に通っており、将来的には、そこに交差する一般国道254号バイパスの整備が予定されています。なお、隣接する荒川河川敷（荒川堤外）には、広々とした農地とスポーツ施設の集約がみられます。



(2) 上宗岡地区の人口動向

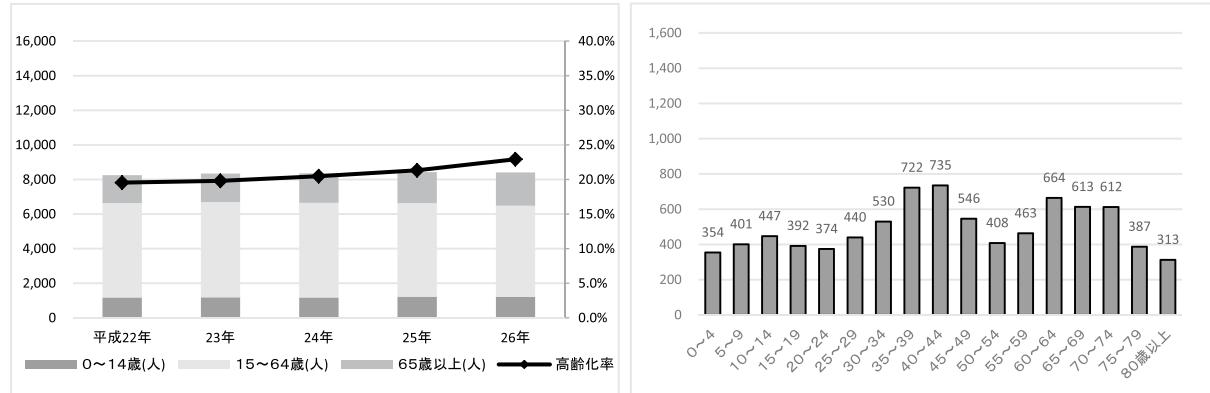
近年の人口は、平成22年の8,245人から平成26年の8,401人と増加傾向となっています。近年は高齢化率が高くなっています。平成26年で22.9%となっています。

年齢別的人口構成では、30歳代～40歳代や60歳代～70歳代前半が多くなっています。

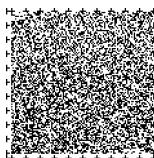
■年齢3区分別人口及び高齢化の推移

	平成22年	23年	24年	25年	26年
総数(人)	8,245	8,341	8,357	8,423	8,401
0～14歳(人)	1,178	1,183	1,179	1,220	1,202
15～64歳(人)	5,456	5,507	5,467	5,406	5,274
65歳以上(人)	1,611	1,651	1,711	1,797	1,925
高齢化率	19.5%	19.8%	20.5%	21.3%	22.9%

■年齢3区分別人口及び高齢化の推移（グラフ） ■平成26年の5歳階級別人口（グラフ）



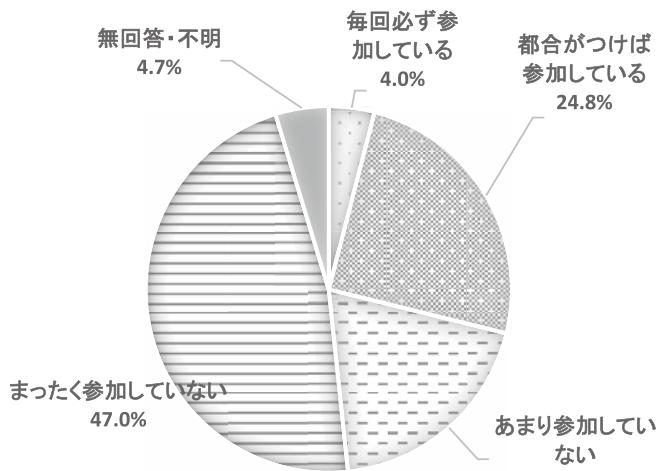
出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年1月1日現在



(3) 上宗岡地区的市民意識

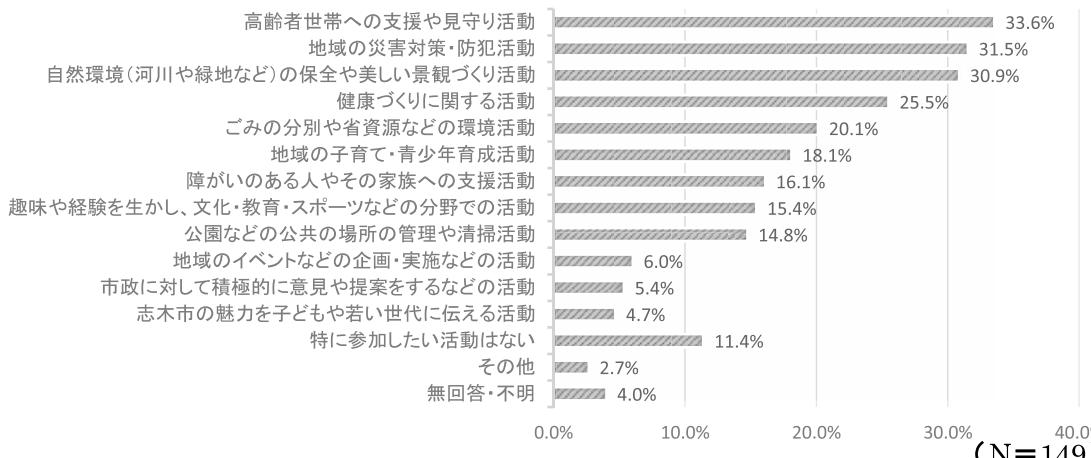
- 地域活動への参加状況は、「まったく参加していない」が47.0%と最も高くなっています。一方で地域活動への参加状況は約30%となっています。
- 市民力を生かしたい活動の内容は、「高齢者世帯への支援や見守り活動」や「地域の災害対策・防犯活動」が高く、安全・安心に関する意識が高いことが特徴的です。

■ 地域活動への参加



(N=149)

■ 市民力を生かしたい活動



(N=149)

※市民意識調査（調査項目の中から、「市民力」に関連する項目）を抜粋

(4) 地区まちづくり会議からの主な意見

① 問題点・課題

- ・「交通」においては、道路整備や車の危険運転などについて課題となっています。
- ・「施設」については、公園等の子どもの遊び場が少ない、誰もが利用できる避難施設がないなどが課題としてあがっており、また、公共施設の利用のしづらさや有効活用についての意見もあがっています。
- ・「コミュニティ」は、地域のつながりの希薄化や集まれる場の不足等の意見があがっています。

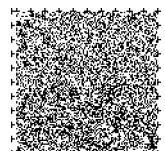
② 優れている点・強み

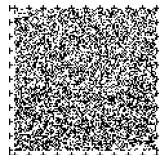
- ・「住環境」について、自然が豊かな点や公共施設の充実があがっています。
- ・「都市基盤」では、下水や道路の整備が行われている点、「利便性」では、商店があり、買い物に便利という点があがっています。

③ 地区で主体的に取り組んでいるまちづくり活動

- ・パトロールなどの「防犯・防災」に関する活動、祭りの開催の「イベント」、花を植える「美化」活動に取り組まれています。

※地区まちづくり会議の意見から、多かった意見や地区を特徴づける意見を抽出





(5) 上宗岡地区の課題

地区の現状を踏まえ、特に地区で解決すべき重点的な課題として、「地区の活性化」「コミュニティ」「住環境」の3つの視点で課題を整理します。

【地区の活性化に関する課題】

- 市民病院に代わる核施設として新たな民間病院が建設され、医療サービスの充実だけでなく地域のイメージアップにも貢献してもらう必要があります。
- 一般国道254号バイパス整備に際しては、広域道路網の充実だけでなく、沿道土地利用の誘導などにより地区の発展にも寄与するような取組が求められています。

【コミュニティに関する課題】

- 荒川堤防沿いなどにおいて新たな住宅地も形成されているため、住民相互の交流やマンション単位での新規居住者による新たなコミュニティの形成が必要となっています。
- 増加している高齢者も住み続けられるように、生活サポートの充実や住宅の改善支援などが求められています。

【住環境に関する課題】

- 幹線道路が通っているため運輸関係の施設も多く、トラックの通過などによって歩行者が危険を感じる場合も多々みられます。
- 志木駅方面へ向かうバス路線が限られているため、不便を感じる状況にあります。
- 近年大きな災害には見舞われていませんが、荒川低地に広がる低層市街地であるため河川氾濫の危険性が指摘されています。

(6) 上宗岡地区のまちづくり方針

以下の方針に基づき、具体的施策に取り組みます。各地区のまちづくりの方針、具体的施策を推進することで、将来構想に掲げる市の将来像の実現を目指します。

方針1

新たな民間病院の建設を踏まえ、福祉センターや総合福祉センターとともに、医療・福祉施設の充実したエリアとして地域イメージの形成を図ります。

【具体的施策】

長期的な視点を持った
公共施設の最適な配置

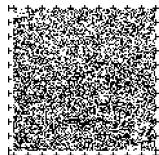
【取組内容】

公共施設の更新のピークが訪れる前の今後20年間で公共施設等のマネジメントを積極的に進め、公共施設等にかかるコストの平準化と長寿命化を進めます。あわせて、志木市公共施設等マネジメント戦略に基づき、コンパクトな市域を生かした施設の集約や複合化等により、サービスを低下させないよう配慮しながら、公共施設の総量（延床面積）を削減します。

持続可能なまちづくり
の推進

人口減少や超高齢社会に対応するため、将来にわたって都市機能を適正に維持管理し、各地域が持つ特性を生かした持続可能なまちづくりを推進します。

また、都市の景観を守るため、景観形成の推進を図ります。



方針2 河川、農地、屋敷林などの一体的な保全や、歩行者・自転車空間の充実などにより、自然豊かな人や地球環境にやさしい地区イメージの形成を図ります。

【具体的施策】	【取組内容】
みどり豊かな暮らし	季節を感じ、自然にふれあえる憩いの場を確保するため、志木市緑の基本計画に基づき、将来にわたり市内に残された数少ない緑地の保全に努めます。また、保存樹木の指定による管理費の一部補助や生け垣の設置に対する補助を行い、都市緑化を促進とともに、市民、市民団体、事業者及び行政による緑化活動を推進します。
環境に優しい交通手段	都市の低炭素化に向けた取組として、環境にやさしく、交通の利便性の高いまちを目指します。

方針3 荒川河川敷（荒川堤外）のスポーツ施設と連携し、日常の健康づくりやスポーツ・イベントの拡充などによりにぎわいの創出を図ります。

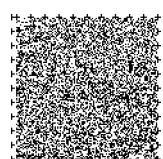
【具体的施策】	【取組内容】
健康ライフスタイルの支援	成人の健康や体力づくり、子どもの体力向上、高齢者の健康寿命の延伸、障がい者のスポーツ参加の支援等を健康・福祉部門と連携して実施していきます。
スポーツ・レクリエーション活動の支援	各スポーツ団体が自立した運営を行いながら、スポーツ・レクリエーション事業を拡大する支援を行います。
スポーツ施設の整備・活用	市民のニーズにあわせて、安全・安心で快適なスポーツ施設の活用を促進します。

方針4 増加している高齢者も住み続けられるように、生活サポートの充実や住宅の改善支援などを促進します。

【具体的施策】	【取組内容】
高齢者福祉の充実	高齢者及び要介護者等が自立した生活を継続できるよう、本人や家族を支援するため、市独自の事業を実施し、利用の周知とともに、支援情報、保健・福祉及び関係機関の連絡体制を強化します。
住宅施策の推進	子どもから高齢者、あらゆる世帯の誰もが安全・安心で快適に暮らすことができるよう住環境を取り巻くさまざまな課題を整理し、良好な住まい・住環境の形成を目指します。

方針5 新旧住民や多様な世代の交流促進により市民が一体となった地域活動の活性化を図り、住み心地の良いコミュニティの形成を促進します。

【具体的施策】	【取組内容】
地域コミュニティの活性化	町内会をはじめとする地域のコミュニティ団体の育成や活動の支援を通じて、市民のコミュニティ意識の高揚と地域コミュニティの活性化を促進し、豊かな地域社会づくりを推進します。



方針6

河川氾濫の可能性を踏まえて、安心して住み続けられるように、安全な避難路の確保と避難所の充実を図ります。

【具体的施策】

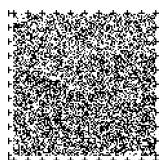
水害対策

【取組内容】

都市型災害を防止するため、市民・民間事業者の開発などにあわせて雨水流出抑制施設の設置を指導・啓発するとともに、雨水貯留施設や未整備水路の整備と維持管理を進めます。また、排水機場等の維持管理や施設の長寿命化を図ります。
大雨や台風、局地的集中豪雨における浸水対策として、設備の効率的な配置や更新、維持管理を行います。

防災体制の充実

日頃から市民の生命・身体・財産を保護するため、災害被害が最小限となるよう防災体制の強化を図るとともに、地域の防災力を高めます。



7. 中宗岡地区

(1) 中宗岡地区の概況

荒川と新河岸川に挟まれた荒川低地の中北部に位置する人口密度の低いエリアで、地区の西端には市役所が立地しています。市役所周辺は自然と歴史を楽しむ空間となっており、新河岸川にはいいろは親水公園が整備されています。

全長 1.8km におよぶせせらぎの小径が地区の南北方向に整備されており、将来的には東西方向に一般国道 254 号バイパスの整備が予定されています。また、隣接する荒川河川敷（荒川堤外）には、広々とした農地とスポーツ施設の集約がみられます。



(2) 中宗岡地区の人口動向

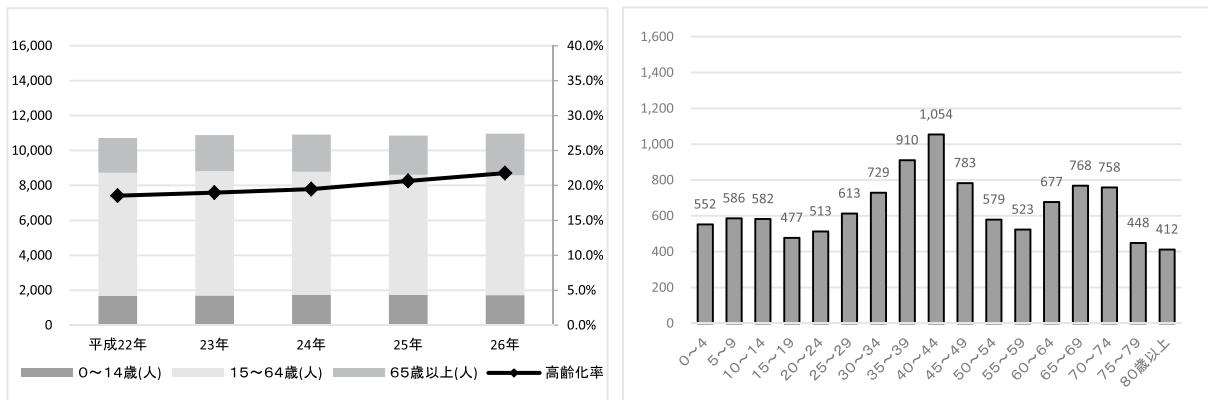
近年の人口は、平成 22 年の 10,717 人から平成 26 年の 10,964 人と増加傾向となっています。年少人口が平成 24 年以降減少に転じており、高齢化も進行しています。

年齢別的人口構成では、30 歳代～40 歳代が特に多く、次いで 60 歳代～70 歳代前半が多くなっています。

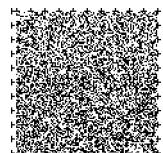
■年齢 3 区分別人口及び高齢化の推移

	平成22年	23年	24年	25年	26年
総数(人)	10,717	10,883	10,911	10,854	10,964
0～14歳(人)	1,681	1,700	1,744	1,725	1,720
15～64歳(人)	7,051	7,118	7,042	6,889	6,858
65歳以上(人)	1,985	2,065	2,125	2,240	2,386
高齢化率	18.5%	19.0%	19.5%	20.6%	21.8%

■年齢 3 区分別人口及び高齢化の推移（グラフ） ■平成 26 年の 5 歳階級別人口（グラフ）



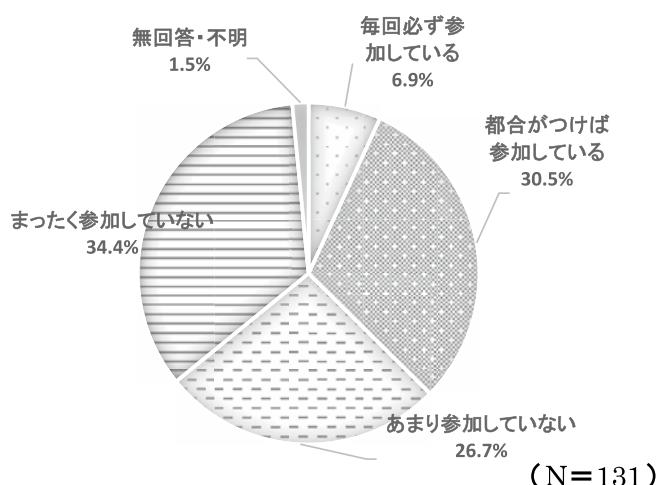
出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年 1 月 1 日現在



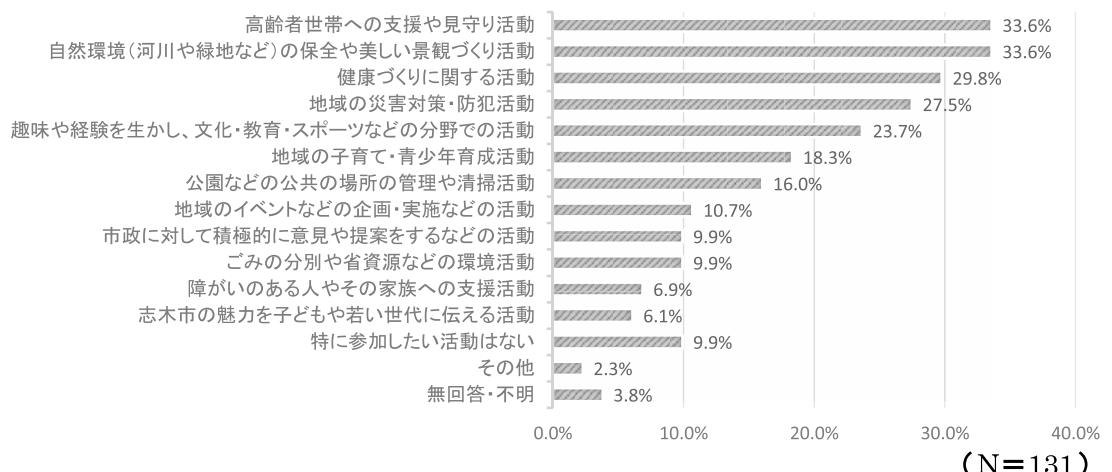
(3) 中宗岡地区の市民意識

- 地域活動へは「都合がつけば参加している」が30.5%と最も高く、館地区に次いで、地域活動への参加意識は高いことが分かります。
- 市民力を生かしたい活動の内容は、「高齢者世帯への支援や見守り活動」が最も多くなっていますが、「健康づくりに関する活動」も上位となっていることが特徴的です。

■地域活動への参加



■市民力を生かしたい活動



※市民意識調査（調査項目の中から、「市民力」に関連する項目）を抜粋

(4) 地区まちづくり会議からの主な意見

① 問題点・課題

- ・「交通」においては、道路整備や一般国道254号バイパスなどについて課題となっています。
- ・「公共空間」については、公園等の子どもの遊び場や公共施設の少なさ、いろは親水公園の管理や公共施設の活用についてあがっています。
- ・商店が少ない等の「利便性」に関する意見や、地域のつながりの希薄化等の「コミュニティ」に関する意見があがっています。

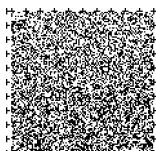
② 優れている点・強み

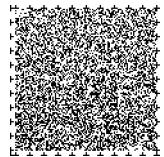
- ・「住環境」について、せせらぎの小径やいろは親水公園等の憩える空間の立地、自然が豊かな点があがっています。
- ・「コミュニティ」では、祭りの活気や住民のつながりの強さ等があがっています。

③ 地区で主体的に取り組んでいるまちづくり活動

- ・下校時のパトロールなどの「防犯・防災」に関する活動、祭りや町内会活動の開催の「イベント」、子育て支援や芸術に触れる機会の提供等の「教育・福祉」活動に取り組まれています。

※地区まちづくり会議の意見から、多かった意見や地区を特徴づける意見を抽出





(5) 中宗岡地区的課題

地区的現状を踏まえ、特に地区で解決すべき重点的な課題として、「地区の活性化」「コミュニティ」「住環境」の3つの視点で課題を整理します。

【地区の活性化に関する課題】

- 一般国道254号バイパス整備に際しては、広域道路網の充実だけでなく、沿道土地利用の誘導などにより地区の発展にも寄与するような取組が求められています。

【コミュニティに関する課題】

- 荒川堤防沿いなどにおいて新たな住宅地も形成されているため、住民相互の交流や団地やマンション単位での新規居住者による新たなコミュニティの形成が必要となっています。
- 増加している高齢者も住み続けられるように、生活サポートの充実や住宅の改善支援などが求められています。

【住環境に関する課題】

- 志木駅方面に向かう道路が限られていることから慢性的な交通渋滞が発生しており、精神的な距離感の拡大を与えています。
- バス路線以外は狭隘な道路も多い中で運輸関係の施設も多数立地しており、トラックの通過などによって歩行者が危険を感じる場合が多々みられます。
- 近年大きな災害には見舞われていませんが、荒川低地に広がる低層市街地であるため河川氾濫の危険性が指摘されています。

(6) 中宗岡地区的まちづくり方針

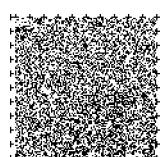
以下の方針に基づき、具体的施策に取り組みます。各地区のまちづくりの方針、具体的施策を推進することで、将来構想に掲げる市の将来像の実現を目指します。

方針1	市役所及び本町通りに通じるいのほ通り（さいたま東村山線）沿道において、商業施設の集積や魅力的な沿道景観の形成を図ります。
------------	--

【具体的施策】	【取組内容】
持続可能なまちづくりの推進	人口減少や超高齢社会に対応するため、将来にわたって都市機能を適正に維持管理し、各地域が持つ特性を生かした持続可能なまちづくりを推進します。 また、都市の景観を守るため、景観形成の推進を図ります。

方針2	河川、農地、屋敷林などの一体的な保全や、歩行者・自転車空間の充実などにより、自然豊かな人や地球環境にやさしい地区イメージの形成を図ります。
------------	---

【具体的施策】	【取組内容】
みどり豊かな暮らし	季節を感じ、自然にふれあえる憩いの場を確保するため、志木市緑の基本計画に基づき、将来にわたり市内に残された数少ない緑地の保全に努めます。また、保存樹木の指定による管理費の一部補助や生け垣の設置に対する補助を行い、都市緑化を促進するとともに、市民、市民団体、事業者及び行政による緑化活動を推進します。
環境に優しい交通手段	都市の低炭素化に向けた取組として、環境にやさしく、交通の利便性の高いまちを目指します。



方針3	荒川河川敷（荒川堤外）のスポーツ施設と連携し、日常の健康づくりやスポーツ・イベントの拡充などによりにぎわいの創出を図ります。
------------	--

【具体的施策】	【取組内容】
健康ライフスタイルの支援	成人の健康や体力づくり、子どもの体力向上、高齢者の健康寿命の延伸、障がい者のスポーツ参加の支援等を健康・福祉部門と連携して実施していきます。
スポーツ・レクリエーション活動の支援	各スポーツ団体が自立した運営を行いながら、スポーツ・レクリエーション事業を拡大する支援を行います。
スポーツ施設の整備・活用	市民のニーズにあわせて、安全・安心で快適なスポーツ施設の活用を促進します。

方針4	いろは親水公園の活用などにより、さくらまつりだけでなく一年を通して新河岸川に市民が集うような仕掛けづくりを促進します。
------------	---

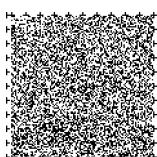
【具体的施策】	【取組内容】
観光資源の発掘と活用	観光協会をはじめとする関連団体等と連携して、地域特性を生かした観光資源の発掘と活用を図るとともに、にぎわいを創出するため、まちの担い手育成などの人材育成に取り組み、積極的な観光事業を展開していきます。

方針5	増加している高齢者も住み続けられるように、生活サポートの充実や住宅の改善支援などを促進します。
------------	---

【具体的施策】	【取組内容】
高齢者福祉の充実	高齢者及び要介護者等が自立した生活を継続できるよう、本人や家族を支援するため、市独自の事業を実施し、利用の周知とともに、支援情報、保健・福祉及び関係機関の連絡体制を強化します。
住宅施策の推進	子どもから高齢者、あらゆる世帯の誰もが安全・安心で快適に暮らすことができるよう住環境を取り巻くさまざまな課題を整理し、良好な住まい・住環境の形成を目指します。

方針6	新旧住民や多様な世代の交流促進により市民が一体となった地域活動の活性化を図り、住み心地の良いコミュニティの形成を促進します。
------------	--

【具体的施策】	【取組内容】
地域コミュニティの活性化	町内会をはじめとする地域のコミュニティ団体の育成や活動の支援を通じて、市民のコミュニティ意識の高揚と地域コミュニティの活性化を促進し、豊かな地域社会づくりを推進します。



方針7

河川氾濫の可能性を踏まえて、安心して住み続けられるように、安全な避難路の確保と避難所の充実を図ります。

【具体的施策】

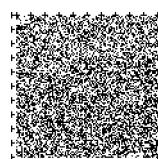
水害対策

【取組内容】

都市型災害を防止するため、市民・民間事業者の開発などにあわせて雨水流出抑制施設の設置を指導・啓発するとともに、雨水貯留施設や未整備水路の整備と維持管理を進めます。また、排水機場等の維持管理や施設の長寿命化を図ります。
大雨や台風、局地的集中豪雨における浸水対策として、設備の効率的な配置や更新、維持管理を行います。

防災体制の充実

日頃から市民の生命・身体・財産を保護するため、災害被害が最小限となるよう防災体制の強化を図るとともに、地域の防災力を高めます。



8. 下宗岡地区

(1) 下宗岡地区の概況

荒川と新河岸川に挟まれた荒川低地の南部に位置する住工混在エリアで、本市の中で最も人口が少なく、また人口密度も最も低い地区です。将来的には地区の東西方向に一般国道254号バイパスの整備が予定されています。

なお隣接する荒川河川敷（荒川堤外）には、広々とした農地とスポーツ施設の集約がみられます。



(2) 下宗岡地区の人口動向

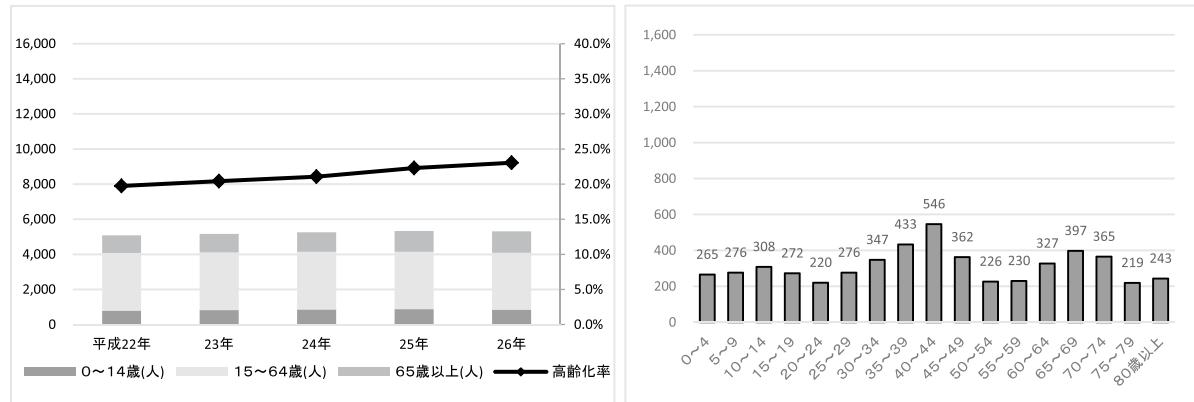
近年の人口は、平成22年の5,085人から平成26年の5,312人と増加傾向となっており、7地区の中で最も人口が少ない地区となっています。高齢化が進行しており、平成26年では高齢化率が23.0%となっています。

年齢別的人口構成では、30歳代～40歳代が特に多くなっています。

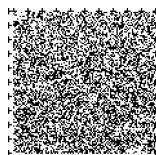
■年齢3区分別人口及び高齢化の推移

	平成22年	23年	24年	25年	26年
総数(人)	5,085	5,163	5,251	5,326	5,312
0～14歳(人)	796	823	861	875	849
15～64歳(人)	3,285	3,286	3,284	3,264	3,239
65歳以上(人)	1,004	1,054	1,106	1,187	1,224
高齢化率	19.7%	20.4%	21.1%	22.3%	23.0%

■年齢3区分別人口及び高齢化の推移（グラフ） ■平成26年の5歳階級別人口（グラフ）



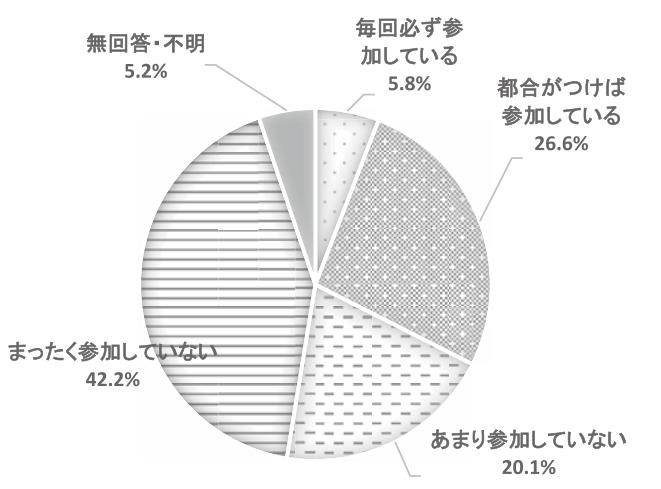
出典：埼玉県町（丁）字別人口調査各年1月1日現在



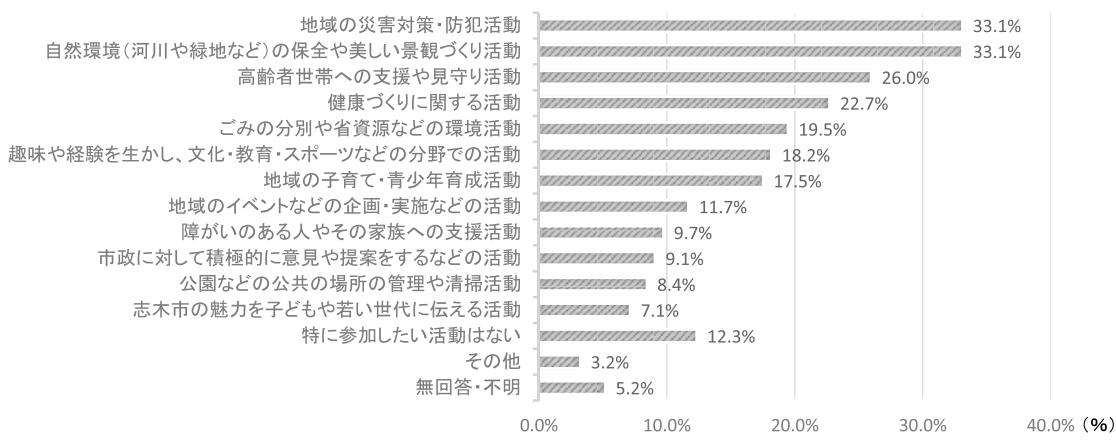
(3) 下宗岡地区的市民意識

- 地域活動への参加意識は、「都合がつけば参加している」が26.6%となっており、比較的参加意識が高い地区といえます。
- 市民力を生かしたい活動の内容は、「地域の災害対策・防犯活動」や「自然環境（河川や緑地など）の保全や美しい景観づくり活動」が多く、荒川や新河岸川に囲まれた地域の特徴といえます。

■ 地域活動への参加



■ 市民力を生かしたい活動



※市民意識調査（調査項目の中から、「市民力」に関連する項目）を抜粋

(4) 地区まちづくり会議からの主な意見

① 問題点・課題

- ・「コミュニティ」においては、新旧住民間や外国人との交流や、地域活動のメンバーの固定化が課題にあがっています。
- ・「道路」については交通量の多さや歩道の段差による危険性、「美化」については不法投棄やゴミのポイ捨て等が課題としてあがっています。
- ・荒川の増水氾濫による「災害」の危険性、商店や病院等が近辺にないことから「利便性」についても課題となっています。

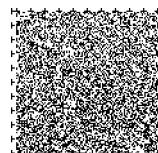
② 優れている点・強み

- ・「コミュニティ」については町内会活動やイベント等が盛んであること、「自然」については荒川やその周辺の田んぼ、土手等による豊かさが強みとしてあがっています。
- ・「利便性」の良さや落ち着いた住環境、子育てのしやすさ等もあがっています。

③ 地区で主体的に取り組んでいるまちづくり活動

- ・町内会で防災訓練を実施するなど「防犯・防災」活動、夏祭りや町内行事などの「イベント」に関する活動、地域で子どもを育てる「教育」活動に取り組まれています。

※地区まちづくり会議の意見から、多かった意見や地区を特徴づける意見を抽出



(5) 下宗岡地区の課題

地区の現状を踏まえ、特に地区で解決すべき重点的な課題として、「地区の活性化」「コミュニティ」「住環境」の3つの視点で課題を整理します。

【地区の活性化に関する課題】

- 一般国道254号バイパス整備に際しては、広域道路網の充実だけでなく、沿道土地利用の誘導などにより地区の発展にも寄与するような取組が求められています。

【コミュニティに関する課題】

- 荒川堤防沿いなどにおいて新たな住宅地も形成されているため、住民相互の交流や団地やマンション単位での新規居住者による新たなコミュニティの形成が必要となっています。
- 増加している高齢者が住み続けられるように、生活サポートの充実や住宅の改善支援などが求められています。

【住環境に関する課題】

- 志木駅方面に向かうバス路線が限られているため不便に感じることが多い一方で、北朝霞駅方面ともバス路線で結ばれています。
- バス路線以外には狭隘な道路も多い中で運輸関係の施設も多数立地しており、トラックの通過などによって歩行者が危険を感じる場合が多々みられます。
- 近年大きな災害には見舞われていませんが、荒川低地に広がる低層市街地であるため河川氾濫の危険性が指摘されています。

(6) 下宗岡地区のまちづくり方針

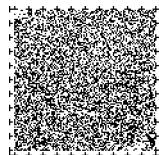
以下の方針に基づき、具体的な施策に取り組みます。各地区のまちづくりの方針、具体的な施策を推進することで、将来構想に掲げる市の将来像の実現を目指します。

方針1	市役所及び本町通りに通じるいのほ通り（さいたま東村山線）沿道において、商業施設の集積や魅力的な沿道景観の形成を図ります。
------------	--

【具体的な施策】	【取組内容】
持続可能なまちづくりの推進	人口減少や超高齢社会に対応するため、将来にわたって都市機能を適正に維持管理し、各地域が持つ特性を生かした持続可能なまちづくりを推進します。 また、都市の景観を守るため、景観形成の推進を図ります。

方針2	河川、農地、屋敷林などの一体的な保全や、歩行者・自転車空間の充実などにより、自然豊かな人や地球環境にやさしい地区イメージの形成を図ります。
------------	---

【具体的な施策】	【取組内容】
みどり豊かな暮らし	季節を感じ、自然にふれあえる憩いの場を確保するため、志木市緑の基本計画に基づき、将来にわたり市内に残された数少ない緑地の保全に努めます。また、保存樹木の指定による管理費の一部補助や生け垣の設置に対する補助を行い、都市緑化を促進するとともに、市民、市民団体、事業者及び行政による緑化活動を推進します。
環境に優しい交通手段	都市の低炭素化に向けた取組として、環境にやさしく、交通の利便性の高いまちを推進します。



方針3

荒川河川敷（荒川堤外）のスポーツ施設と連携し、日常の健康づくりやスポーツ・イベントの拡充などによりにぎわいの創出を図ります。

【具体的施策】

健康ライフスタイルの支援

スポーツ・レクリエーション活動の支援

スポーツ施設の整備・活用

【取組内容】

成人の健康や体力づくり、子どもの体力向上、高齢者の健康寿命の延伸、障がい者のスポーツ参加の支援等を健康・福祉部門と連携して実施していきます。

各スポーツ団体が自立した運営を行いながら、スポーツ・レクリエーション事業を拡大する支援を行います。

市民のニーズにあわせて、安全・安心で快適なスポーツ施設の活用を促進します。

方針4

増加している高齢者も住み続けられるように、生活サポートの充実や住宅の改善支援などを促進します。

【具体的施策】

高齢者福祉の充実

住宅施策の推進

【取組内容】

高齢者及び要介護者等が自立した生活を継続できるよう、本人や家族を支援するため、市独自の事業を実施し、利用の周知とともに、支援情報、保健・福祉及び関係機関の連絡体制を強化します。

子どもから高齢者、あらゆる世帯の誰もが安全・安心で快適に暮らすことができるよう住環境を取り巻くさまざまな課題を整理し、良好な住まい・住環境の形成を目指します。

方針5

新旧住民や多様な世代の交流促進により市民が一体となった地域活動の活性化を図り、住み心地の良いコミュニティの形成を促進します。

【具体的施策】

地域コミュニティの活性化

【取組内容】

町内会をはじめとする地域のコミュニティ団体の育成や活動の支援を通じて、市民のコミュニティ意識の高揚と地域コミュニティの活性化を促進し、豊かな地域社会づくりを推進します。

方針6

河川氾濫の可能性を踏まえて、安心して住み続けられるように、安全な避難路の確保と避難所の充実を図ります。また、緊急時対応については、隣接する朝霞市との連携強化を図ります。

【具体的施策】

水害対策

【取組内容】

都市型災害を防止するため、市民・民間事業者の開発などにあわせて雨水流出抑制施設の設置を指導・啓発するとともに、雨水貯留施設や未整備水路の整備と維持管理を進めます。また、排水機場等の維持管理や施設の長寿命化を図ります。
大雨や台風、局地的集中豪雨における浸水対策として、設備の効率的な配置や更新、維持管理を行います。

防災体制の充実

日頃から市民の生命・身体・財産を保護するため、災害被害が最小限となるよう防災体制の強化を図るとともに、地域の防災力を高めます。

